

守本尊とは

干支の起源は古く殷（いん）の時代（前1500～前1000年）に既に日を数えるのに干支が使われていた。物を数えるのに物と指を1つずつ対応させて指折り数えるのが数の最も基本的な原理だから日を数えるにあたって1, 2, 3....の代わりに甲、乙、丙....をあてたのが十干である。それでは12支の方はどうか。時を測る基準としたものは太陽と月であった。太陽は1日を区切り、月のみちかけの1まわりが30日を1つの単位として1ヶ月が生まれたわけである。1年を月のみちかけによって12に分けたその1つ1つの区分「支」が、子・丑・寅....で有る。仙台では古くから卦体神（けたいかみ）あるいは守り本尊と称してその人の生年の12支をとって子年であれば千手観音、丑・寅が虚空蔵菩薩という信仰の風習が古くから行われてきた。これは全国的にも通ずる信仰形態でもあった。古くからといっても藩政時代に入ってからであることはいうまでもない。この信仰は伊達氏が仙台に入府してのち社会の安定を見せた17世紀中頃以降と思われる。仙台にあっては忠宗の治世になるこの時期までには守本尊に関係する社寺は一応その体制を確立したと思われる。それに土俗的な民間信仰も加わり、この卦体神信仰が徐々に民衆の中に芽生えていった。

12支守本尊（生まれ年の御守本尊）

子	千手観世音菩薩
丑、寅	虚空蔵菩薩
卯	文殊菩薩
辰、巳	普賢菩薩
午	勢至菩薩
未、申	大日如来
酉	不動明王
戌、亥	阿弥陀如来